

企業名： アンリツ

レポート名：「アンリツ統合レポート 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

アンリツは『誠と和と意欲』をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」という経営理念、『『はかる』を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。』という経営ビジョン、4つにわたる経営方針を軸としてブランドステートメントである「Advancing beyond」とサステナビリティ方針を定めている。アンリツはこれらの方針・概念に従って現在企業活動を行っており、そしてまた今後の目標においてもこれらに基づいて企業価値を高めていこうとしていることが見て取れる。

アンリツは特に 2030 年度において売上高 2000 億円、営業利益率 20%を達成することを大きな目標にしており、経営トップである CEO、通信計測事業・PQA 事業・環境計測事業・センシング&デバイス事業のプレジデントらがその目標に対して具体的にどのような活動をすれば達成できるのかをそれぞれが表明している。売上高が 1000 億円で頭打ちになっている現状を課題としながら、わかりやすい目標を掲げ、そこにたどり着くまでの過程を明確化している点が優れていると感じた。

また、2030 年度という長期的な目標を定めるだけでなく、過去の中期経営計画の成果と反省点を表にまとめ、新たな中期経営計画である「GLP2023」において、2030 年度に向けて今何をしなくてはならないのか、という部分をはっきりさせていたことは具体化の一つとしてわかりやすかった。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

はじめに事業別売上高をグラフで示すことによって通信計測事業が大きく企業の利益を確保していることを示している。さらに別の項では過去 127 年の沿革を示しながらアンリツが歴史的背景のなかでどのようなポジションに存在していたのか、そしてそれにつながる現代における強みを表現している。

各事業のビジネスモデルの説明において、事業の具体的な内容を説明するとともに競合相手の紹介、実際シェア率はどのくらいであるのかを記載しており、特に通信計測事業における 5G と IoT、または次世代通信システムに関する開発が企業の価値創造に大きく貢献していることが分かった。また PQA 事業でも国内市場では高いシェア率を維持していることを示している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

1. で書いたようにアンリツは 2030 年度に向けて各事業のプレジデントが事業内での具体的目標を掲げており、それに対するアプローチも定めている。中でも現在の強みである通信計測事業の項目では、世界中で拡大していく 5G の発展に合わせてそれに必要となる計測や開発部門をより強化していく必要があることが示されている。しばらく加速し続ける 5G の発達に貢献していくことがアンリツの競争優位を生むことが見て取れた。また 5G 通信に限らず、他の通信規格においても持続可能な社会を実現しながら企業の存在価値を高めてく技術開発を成し遂げていくべきであるとされていた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

アンリツは統合レポートにおいて事業面で求める人材だけでなく人財の項目を設けてアンケートの結果などを載せている。ライフワークバランスや社員満足度調査、女性の進出、人的資本投資の 4 つからはただ社会の風潮に身を任せた、切っ掛けだけだけのスローガンを掲げるのではなく、企業が人財を大切に、社員一人一人を尊重していることがわかる。育休制度の成果や働きやすさ満足度の数値は学生にとっても現実味を与えるものとなり、充実したキャリアを送ることができるのではないかと感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

B to B 企業であるため大衆・学生にとってなじみのない企業ではあるが、どのような事業を展開しているのか、そしてそれを写真やグラフで詳細に表現することによって統合レポートだけで企業の大枠をとらえることができることが端的にまとまっているという点でも優れていると感じた。また企業理念とそれぞれの目標のつながりが明確に感じられる説明でありわかりやすかった。また特に読みにくいと感ずる部分はなく、グラフ等に問題があるとは感じないため改善の必要性はないと思われる。